２０１３．８　発行

しゃべり場★REPORT No. 9

＜お問い合わせ＞
中央公民館　　433-7222
浜手地区公民館 431-0926
山手地区公民館 446-0090

第3回

今年もしてます！！「しゃべり場★公民館」

昨年からはじまった市民も職員も、公民館に来たことのある人もない人も、誰でも自由に参加できる「しゃべり場★公民館」。2 年目の今年は、テーマを決めて話していこう！ということで、7 月まで毎月 1 回のペースで開催しています。今回は貝塚市を飛び出して、枚方市生涯学習市民センターへ出かけてきました。

枚方市の生涯学習市民センターって？

かつて「枚方テーゼ」と呼ばれ、全国的に注目された枚方市の社会教育。公民館の取り組みも活発で、エネルギーに溢れていました。

時代は流れ、平成 18 年 10 月、市民の幅広い学びを支え、その成果を生かしながら行政と市民の協働のまちづくりを推進するため、教育委員会内に置かれていた公民館を総合行政部門に移し、名称も「公民館」から「生涯学習市民センター」に変更しました。貝塚市とは運営形態が違う枚方市。数年が経過した今、変更したことによる成果と課題について伺ってきました。

「枚方テーゼ」とは？

昭和 38 年「枚方市における社会教育の今後のあり方」をまとめて提示したもの。

社会教育とは「主体は市民である」「国民の権利である」「本質は憲法学習である」「住民自治の力となるものである」「大衆運動の教育的側面である」「民主主義を育て、培い、守るものである」とし、「枚方テーゼ」と呼ばれ全国的に注目されました。

成果と課題

※平成 23 年 2 月枚方市「生涯学習推進体制の再編の検証と今後の取り組みについて」より

成　果

・利用対象者の拡大により、市民の多様な学習活動に利用されるようになった。
・開館日・利用枠の拡大により、市民の活動機会が増えた。
・広く低額の使用料を求めることで、施設の改修や備品購入を行い学習環境を維持。
・市民が事業の企画に関わることで、多様な市民による事業が展開されている。

課　題

・運営体制の充実。
・利用対象者・利用枠の拡大に見合うだけの利用が少ないため、認知度の向上が課題。
・施設予約システムの申込時期や利用時間枠の再検討。
・良好な施設機能の維持のため、活動に必要な備品の整備と使用料の徴収のあり方について検討。
・他部局と連携して社会的課題や地域課題に関わる事業の拡充を図ることが必要。
・活動委員会（利用者・市民等で構成）の充実、活動委員会内での職員の役割。

質疑応答より

・公民館から生涯学習市民センターへ再編する時、「市の直営でなくなるのではないか」という声や、使用料有料化に対する反対の声があった。
・市民と職員で構成する活動委員会内での職員の役割・関わりは事務的な関わりになっているのが現状。
・文化的なものは比較的できているが、社会的な課題や地域の問題については取り組むのが難しい。
・優先予約期間の見直しや、利用率の低い夜の時間帯の利用率向上の仕組みが必要と思っている。

―おさらい―　しゃべり場★公民館って？？

平成 24 年 3 月に開催された 3 館連続講座を聴いて、**公民館でのいつもの活動を、これからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない！**利用者、職員の立場関係なく、**『公民館』を語るところから始めよう！**と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。